

2月も下旬に入り、春の足音もすぐそこまでと言いたいところですが、厳しい寒さが続いています。インフルエンザの猛威もまだしばらく続きそうですので、健康に留意してお過ごしください。現在会員登録数 986 人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は3月21日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》ＹＯ！この本読んだ？ Yasuko's & Okiko's Talk

《2》読書活動ボランティアのためのワンポイント 30

《3》サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》行って来ました！

【3】全国イベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● アメリカ合衆国の絵本作家 デイビッド・ウィーズナー氏による

(1)国際講演会 (2)子ども向けワークショップ の参加者を募集しています。

(1) 国際講演会「絵は物語るーデイビッド・ウィーズナーの世界」

日 時：平成 25 年 3 月 24 日（日） 午後 1 時～ 4 時

会 場：大阪府立中央図書館 大会議室 （東大阪市荒本）

通 訳：多田昌美（美作大学准教授）

対 象：一般、読書ボランティアの方など 80 名（申込先着順）

参加費：1,000 円

(2) ワークショップ「デイビッド・ウィーズナーさんと絵本をつくろう」

日 時：平成 25 年 3 月 25 日（月） 午後 1 時～ 3 時 30 分

会 場：万博記念公園内 自然観察学習館 （吹田市千里万博公園）

通 訳：多田昌美（美作大学准教授）

対 象：小学生 30 名（申込先着順）

参加費：無料 別途、万博記念公園の入園料は必要です。

◇主催：財団法人 大阪国際児童文学館

後 援：大阪府立中央図書館／大阪府子ども文庫連絡会

協 賛：近畿日本鉄道株式会社／サントリーホールディングス株式会社／

パナソニック株式会社／株式会社富士通システムズ・イースト／

ムサシ・アイ・テクノ株式会社

助 成：独立行政法人 日本万国博覧会記念機構

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

2011 年度開催の「第 28 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」絵本の部入賞

作品の原画展を開催しています。3月3日に予定しています第29回（2012年度開催）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月24日（日） *ただし、図書館の開館日時

場 所：（1）大阪府立中央図書館 1階エントランス

（2）大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

入場料：無料

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#2501tenji

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『モッキンバード』 キャスリン・アースキン/作 ニキ リンコ/訳

明石書店 2013年1月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ:小学5年生のケイトリンはパパと二人暮らし。幼いころママを病気で亡くし、中学生の兄を銃の乱射事件で亡くしたばかり。ケイトリンは兄の死に深い喪失感を抱いているが、アスペルガー症候群であるため、うまく言葉に表したり、他の人と共有したりできない。けれども先生の支援を受け、父親と兄が作りかけていた木のチェストを作りあげ、その天板に兄とケイトリンのお気に入りの映画「アラバマ物語」の原作にちなんでモッキンバードの絵を描くことで心の区切りを見つける。

Y：アスペルガー症候群のケイトリンの成長と中学校での銃の乱射事件という二つの大きなテーマが描かれています。

O：どちらもとても重要なテーマですね。この作品の重さを語る2つの要素をキチンと読者にわかってもらおうと、作者は、「アラバマ物語」を持ってくる、兄と同じ事件で母親を殺された小学1年生の少年と友だちになる、犯人のいとことケイトリンが対峙する、兄の作りかけのチェストを完成させる、モノクロでしか絵を描けなかったケイトリンが最後にはカラーで絵を描こうとするなど、ありとあらゆる手をつくして大奮闘しているのが伝わってきました。

Y：ケイトリンがアスペルガー症候群であるために、決まったルールをはずれるととまどう様子がリアルに描かれていると思いました。

O：そんなケイトリンを支えていたのがお兄さんの存在だと思うのですが、本コラム26号で話し合った『おまけ鳥』（飯田朋子/作 新日本出版社）でも見られたように、理解し合うことのできるきょうだいの存在は大きいですね。

Y：兄の死に対する不安や喪失感を言葉にし、ケイトリンにわかるように伝えようとするブルック先生の存在はケイトリンにとってとても大きかった

と思います。

O：先生とケイトリンの会話がちぐはぐになるところにはうまくユーモアを挟み込んでいて、この作品を読み進める動力になっていたのではないかしら。ケイトリンの律儀な言葉の理解の仕方がわかると、とてもいい子だと魅力的に感じました。

Y：一方で悲しみから立ち直れない父親が時にケイトリンの言葉に傷つき、そのことにケイトリン自身も傷つきながらも一緒に立ち直ろうとしていく様子は心に残りました。

O：冒頭はやや読みにくかったのですが、少しずつひきこまれて、最後は、一気に読みました。訳するのも、テーマも難しい作品が、出版されたことにうれしくなりました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 30

その6 絵本の読み方（5）『どろんこハリー』を読む：表紙から冒頭へ

今回から『どろんこハリー』（ジーン・ジオン/文 マーガレット・ブロイ・グレアム/絵 わたなべしげお/訳 福音館書店）を例にとりながら、1冊の本をどう読めばいいかについて考えてみましょう。

まず、表紙です。絵を見せながら、どんな作品かを伝えるためにタイトルを読みます。黒いぶちのある白い犬のハリーと、どろんこになって白いぶちのある黒いハリーが向かい合っている絵が描かれています。この状況を「どろんこ」という言葉で表わし、犬の名前をハリーと告げているのがタイトルです。

作品を読めば、「どろんこ」になる状況は4見開きにわたって描かれ、夢にまで見る楽しいできごとです。けれども一方で、どろんこになったことで家族に自分のことをわかってもらえないという状況にも陥ります。そして、絵に描かれているハリーを何歳ぐらいで、どんな性格かを考え、子どもたちにどう受け取って欲しいかを考えながら「ハリー」という名前を読みます。

ページをめくると、見返しがあり、次のページをめくると、とびらが2見開きにわたっています。最初は半ページ、次は全ページです。そして、ハリーがブラシをおふろばから取って後ろめたそうないたずらっぽい目をしながら、ブラシをくわえて逃げて行く様子が描かれています。つまり、既に物語は始まっています。そのことを意識しながらページをめくっていきます。

それぞれのページにタイトルが書かれていますが、2見開き目のとびらの方が聞き手へのインパクトが強いため、そこでタイトルを再度読みます。表紙の部分よりは、物語の世界へ入っていく直前というイメージが強く、ハリーがブラシをくわえて走っているスピード感があるため、私が読むとすれば、表紙より、楽しく、ハリーがどろんこに向かっているイメージで読みます。

次にページをめくると、ハリーがブラシをくわえて階段を飛ぶように下っていく絵が見えます。冒頭は、「ハリーは、くろいぶちのある しろいぬです。」で始まります。子どもたちは、表紙の絵の左側がハリーであることに

気づきます。冒頭の文は、ハリーの外見の紹介です。つまり、この作品にとって、主人公はハリーでその外見が重要なキーであることを単刀直入に伝えていきます。はっきり、すっきりと読むことによって、ハリー像がずっと聞き手に入っていきます。

そして、「なんでもすき」と「おふろにはいることだけは だいきらい」という対比がおふろに対する強い拒否感を表しています。この作品の二つ目のキーである「おふろ」が絵では、とびらで表現されていますが、ことばではここで初めて出てきます。こうして、冒頭で名前、外見、好き嫌いが書かれ、これらが作品の問題提起となっていますので、そのことを聞き手に伝えることを心に留めて読んでいきます。

* 次号は「その6 絵本の読み方(6)『どろんこハリー』を読む：起承転結に留意」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 10 回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●東京都歴史文化財団

TOKYO DIGITAL MUSEUM (トーキョーデジタルミュージアム)

<http://digitalmuseum.rekibun.or.jp/index.html>

江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、江戸東京たてもの園の収蔵品を横断的に検索できるサイトです。デジタルミュージアムとして、検索した画像を見ることができます。

このサイトの収蔵品で注目したいのが、「双六」です。

ご承知のとおり、双六は、児童雑誌の附録としてこれまで実に多くのものが世に送り出されてきました。新年号には大附録として、「東海道五十三次」や「世界一周」、「新東京名所めぐり」など、編集者は競って双六を制作。家族で遊ぶのが正月の定番でもありました。子どもだけでなく、双六は大人向けの新聞や雑誌にも付けられる人気のボードゲームだったのです。

しかし、遊び楽しむ性質上、どうしても消耗し後世に残りにくく、現存する双六は少ないと言わざるを得ません。特に明治や大正、昭和期のものは大変貴重です。

サイトには、双六が 200 件以上掲載されています。その作者は、当時を代表する作家や画家たち。例えば、雑誌「少年世界」の主筆であった巖谷小波、同じく「日本少年」の有本芳水、画家では竹久夢二、川端龍子、岡本帰一、本田庄太郎、山川惣治といった豪華な顔ぶれです。

ユニークなものでは、子ども向けではありませんが、幸田露伴の案による「明治立身双六」(『文芸倶楽部』4 巻 1 号付録)もあります。

こうした絵双六も作家・画家たちの貴重な仕事。時流を反映し他誌に負けじとさまざまな趣向を凝らした逸品の数々、一度ご覧になってみませんか。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その11〉の予定です。

《4》 行って来ました！

兵庫県立美術館で開催されている展覧会「フィンランドのくらしとデザイン ムーミンが住む森の生活」に行ってきました。フィンランドは、一年の半が雪でおおわれ、白夜やオーロラなど神秘的な気候をもつ森と湖の国です。この展覧会では、フィンランドの美術、建築、デザインの100年の紹介として約350点が展示されています。

第一章では、スオミ（フィンランド語でフィンランドのこと）の自然や森でのくらしが描かれた絵画や、フィンランドの伝説が物語としてまとめられた『カレワラ』の装丁本の原画、トーヴェ・ヤンソンの「ムーミン」の挿絵の原画などが展示されています。雪深い森の風景画はまさしくムーミンの世界で、どこかにムーミンたちが隠れていそうな気がします。また、『カレワラ』と「ムーミン」は、森に生きること、夢と冒険、喜怒哀楽がテーマであるという共通点があることが解説されていました。

第二章では、一転して色鮮やかな雰囲気、日本でも人気があるアアルトの椅子やイッタラの食器やマリメッコの布地などが展示されています。いろいろな色や形に仕立てられた服が、ハンガーで天井から吊るされて揺れていたりして心も躍ります。

第三章では、フィンランドの今というテーマで、鉄道や郵政などの公共デザインが紹介されています。フィンランドでは、すべての人にとってあらゆる観点から良いとされるユニバーサルデザインやエコロジーなどの考え方が、厳しい冬や森のくらしの中で古くから根づき、現在も受け継がれているのだそうです。

今回は、会場が混雑していたのでキャプションがじっくり読めないと考えて、別料金の音声ガイドを頼りにしましたが大正解。声優の高山みなみさんが、ムーミンのお話に出てくるエピソードに関連づけて、ときどきムーミンの声で解説されていて、見どころがよくわかりました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● “ハロー・ディア・エネミー！” 講演会 世界の絵本から平和を考える
「平和と寛容の絵本を語る」 in ひろしま 2013

講 師：野坂悦子さん（翻訳家・紙芝居作家）

「幸せってなんだろう？—子どもの本と紙芝居を通して」

アーサー・ビナードさん（詩人・翻訳家・エッセイスト）

「平和ポッパツのお祭りさ！」

日 時：平成25年3月4日（月）午後1時30分～4時

会 場：広島市まちづくり市民交流プラザ北棟6階（広島市中区袋町）

定 員：110名（申込先着順）

参加費：1,000円

主 催：「ハロー・ディア・エネミー！」講演会実行委員会

● 梶山俊夫 絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館 ビッグバン（堺市南区茶山台）

期 間：開催中～3月17日（日） 月曜日休館

内 容：旧大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた絵本原画。2回目の今年、梶山俊夫さんの作品を展示します。「あほろくの川だいこ」「いぐいぐいぐいぐ」など、本物の魅力をお楽しみください。

料 金：入館料が必要

※ 2月23日（土）、24日（日）は、おはなし会などの関連イベントあり

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ **【4】プレゼント** ■

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『モッキンバード』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.30プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は3月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

お正月を迎えたばかりと思ったら、来週はもう3月。歳をとるにつれ、どんどん1年を短く感じます。私はずいぶん以前から、その根拠として、数字の1を年齢で割った数値がどんどん小さくなるからと考えてきました。つまり、10歳の子は0.1、50歳の方は0.02、今の私は0.015という具合です。ところが最近、19世紀フランスの哲学者によって「生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例する」ジャンネーの法則とされていることを知りました。ただ、それだけです…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
